

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター三和担当圏域レベル 担当圏域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 6 年 11 月 19 日（火） 9 時 30 分 ～ 11 時 00 分
2 開催場所	白脇協働センター 大会議室
3 参加者	16名 委員6名（飯田地区4名、白脇地区2名）、関係機関6名、事務局4名
4 協議の内容	1.開会 2.協議事項 ①これまでの振り返り 事務局より、令和6年度第1回三和圏域生活支援体制づくり協議体について報告した。 ②【情報提供】 ・他圏域生活支援体制づくり協議体 紹介 鴨江圏域…健康づくり関する出前講座、健康測定を体験していただき地域での普及を図る取り組みを紹介 三方原圏域…車両での移動を伴う付き添い支援について紹介 可新圏域…カフェスタイルのサロンについて紹介 ・飯田地区民生委員・児童委員の把握している地域の状況についての聞き取り調査・考察 飯田地区民児協(R6.6.17)にて民生委員・児童委員が把握している地域の状況について聞き取り調査を行った。その聞き取り調査で挙げられた意見から、市社協より、飯田地区の良い所、今後課題と考えられることを共有した。 ①昔ながらの親族・地域とのつながり、助け合いが深い一方、新しく移り住んだ方とのつながりが希薄している。 ②比較的買い物場所、交通公共機関が充実している一方、移動等課題がある人を見つけないか。 ③情報格差について:(飯田地区に限らず)高齢者の中でもインターネットを操作できる・できない差が大きい。 ・飯田地区社協サロン情報交換会について 飯田地区社協サロン情報交換会で挙げられた意見を共有した。 「良いこと」 ・サロンに参加すること自体が生きがいにしている ・新規参加者を増やすために敬老会で周知を行った、地域の祭りで体験ブースを構える

予定である。

- ・サロン同士の情報共有の場、他のサロンの事を知ることができる機会があって良い。(飯田地区社協サロン情報交換会)
- ・最近の高齢者に関わる相談支援の状況について (包括三和、市社協)
包括三和、市社協(CSW)より、高齢者に関わる相談支援の状況について共有した。

③【意見交換】

- ・高齢者に関する困り事・課題と思われること
- ・地域住民として良かったと感じたこと、活動の従事者として広がれば良いと思われること
- ・活動をしていて困ったこと、負担に感じたことについて

「1グループ」

○高齢者に関する困り事・課題と思われること

- ・困り事があっても親族に頼むことができる地域(下飯田町は白地地域)。そのため、困り事があっても、地域のどなたかに聞けば分かる。自分の活動としてはあまり困り事を聞かない。ただし、飯田地区の中でも、三和町や渡瀬町はアパートも多く、困り事が多いと聞いている。
- ・シニアは月1回定例会があるが、そのような場で困り事や課題は聞かない。参加者は集まりの場で困り事は言えないのかもしれない。
- ・シニアやサロンの会場までの交通手段がなく参加できない人もいる。

○地域住民として良かったと感じたこと、活動の従事者として広がれば良いと思われること

- ・輪投げ大会は毎回100人くらい参加してくれる。
- ・独居の人が煮物をたくさん作ったからと、近所に配ってくれていると聞いている。良いことだと思う。
- ・ゴミ置き場まで行けない高齢者に対して、自宅の門に置いておくと近所の人ゴミ置き場まで持っていつてくれる。
- ・地区社協の家事支援が活躍してくれている。白脇地区社協は活発に活動している。
- ・見守りっこ隊の活動が活氣的。広がればよいと思っている。
- ・外国人高齢者がサロンに参加している地区はあるか。そのような方に広めるにはどうしたらよいか。

○活動していて困ったこと、負担に感じたこと

- ・シニア・サロンに新しい人が入ってこない。会員でも活動に参加していない人が一定数いる。誘ってもまだ早いと言われる。
- ・自分の趣味が忙しくシニアやサロンに興味がない。輪投げに興味がない。(趣味がある

ことは良いことだが)

- ・役員交代をしたくても役員を受けてくれる人がいない。
- ・下飯田ほがらかサロンは段階の世代がいない。段階世代より若い方と80代～90代以降と年齢構成に偏りがある。

「2グループ」

○高齢者に関する困り事・課題と思われること

- ・サロンやグランドゴルフに参加してくれているが、高齢なため転んでしまう方がいる。
自分は大丈夫と気が強い方がいる。
- ・サロン活動やシニアクラブ活動において、「あの人が参加するならば、参加しない」などの人間関係の問題がある。
- ・会に参加することで、若いことを理由にすぐに役が回ってくる、押し付けられる。だから、地域のサロンなどに行かず、その他のカルチャースクールやジムに通う方がいる。
- ・お金をかけることで、いろいろなサービスを利用できる。地域の活動に参加することで自由がきかなくなる。
- ・そもそもサロン活動がない。以前はあったが、参加者が歳を重ねるごとに亡くなっていき、新しい人が入らずに消滅した。
- ・でかける機会がなくなった、きっかけもない。
- ・自治会をみても戸数が少なく、活動が難しい。
- ・行政への相談は様々だが、就労ができなくなって生活に困る方、身寄りなしや保証人の問題などがある。
- ・高齢者の社会的な役割が変わってきている印象を受ける。
- ・既存の活動の衰退期なのかもしれない。次の世代が係わっていくことが大切だが、そもそも人と接する時代ではなくなってきているのかもしれない。

○地域住民として良かったと感じたこと、活動の従事者として広がれば良いと思われること

- ・20年ほど民生委員をやっている。最初は訪問を嫌がっていた方も、長期的な関係を持つことで、相手も柔和になっていく。地域のことに興味を持ってくれる。
- ・中学生を巻き込んだ活動に力を入れている。中学生に防災訓練などの地域活動に参加をしてもらい、バケツリレーなどに留まらず、炊き出しなど興味や関心が持てる役割をお願いしている。
- ・子どもを含めた活動は地道ではあるが、将来的に芽が出て、地域が良くなると思う。
- ・移動スーパーを利用している方がいる。買い物の時に注文(予約)をすると、翌週に持ってきてくれる。
- ・シルバーカー(歩行器)の種類が増えている。買い物したものを荷台に乗せている方を

目にする。

○活動していて困ったこと、負担に感じたこと

・近所トラブルの相談を受けたことがある。子どものバスケットの音が気になる様子。社協や包括に相談をしたこともある。民生委員として、その方の話を聴くようにした。

・スーパーの買物用のカートを持ち帰ってくる方がいた。返しに行きながら謝っていた。家族が遠方だったため連絡して、帰省するときにはスーパーに謝るように助言した。

3.第3回協議体会議について

日時:令和7年2月13日 9時30分から11時00分まで

場所:飯田市民サービスセンター 講座室(A・B)

4.連絡事項

5.閉会

5 今後の見通し・ 必要な対応

今回の協議体では、以前取ったアンケートをもう一度見直し、考察をしたことを共有した。改めて、地域について考えるきっかけを作る機会にする。

また、各地区混合でのグループワークを行った。それぞれ住んでいる地域の状況、活動従事者として悩み事を話し合った。

今回の情報提供・地区を交えた話し合いから、地域ニーズ・地域の状況について深めることができた。今後の協議体を進めていくための材料とする。